

令和3年9月30日（木）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会  
議題（1）についての意見

京都大学高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代

■ グループAでの議論について

若江委員から「学びと社会の未来創造にむけて」というご報告がありました。企業のCSV（Creating Shared Value 共通価値の創造）に関する活動として、SDGsをテーマに学校と教育連携を行う事例が紹介されました。

具体例としては、サントリーの「水育」（SDGsの目標6「水・衛生」など4目標と関連）と、UCCグループのコーヒー生産国農園支援（SDGsの12目標と関連）が取り上げられました。企業の活動が社会的課題解決という点で学校と連携できること、そこにおいて学校と企業を結びつけるコーディネーターが重要な役割を果たしていることを知る上で、興味深い事例でした。

ただ一方で、こうした活動は、企業のブランディングや広報活動にとどまりかねない危うさもはらんでいるように思いました。

そのような危うさに陥るのを防ぐには、「水」や「コーヒー生産」がこれまでどんな問題を抱えてきたのか（例えば、モノカルチャー経済など）、こうした企業の活動がそれらの問題にどのように取り組み、どういう面で解決に寄与しているか、残された課題は何なのか、自分たち若い世代は何ができるか、といったことを総体的に考える視点が必要であると思います。

また、SDGsの17目標を単にチェックリストのように使うのではなく、その背後にある「経済成長と持続可能性が両立するかという大きな問い」を常に意識させることも必要ではないでしょうか。

こうしたことをやることにこそ、教師の役割があると感じました。